

運営会議の外部委員からの意見を反映した主な事例（令和7年度）

運営会議外部委員からの意見	対応・取組
<p>◆若手育成について</p> <p>【意見】</p> <p>大学院生の育成を視野に入れた国際プログラムを整備するのはどうか。</p> <p style="text-align: right;">（令和7年6月20日 運営会議）</p>	<p>【対応・取組】</p> <p>テストケースとして、令和8年度に、ハーバード大学ライシャワー研究所と共同で、日本研究を専門とする国内外の大学院生を集めて、5日間に渡ってプレゼンテーションスキルを集中的に特訓するプログラム「International Presentation Workshop」を開催することとなりました。</p>
<p>◆書物（研究成果）の多言語発信の推進</p> <p>【意見】</p> <p>人文系の研究の基本が、論文ではなく、本であるという点は変わらない。古い本でも新しい本でも読んで影響を受ける。研究成果（特に書物）の多言語発信は、AI翻訳の進展によりハードルが下がってきていることを利用すべきだし、出版という形でやっていただきたい。</p> <p style="text-align: right;">（令和7年6月20日 運営会議）</p>	<p>【対応・取組】</p> <p>第3期の成果物である「日文研大衆文化研究叢書」（全5冊、日本語版）について、令和5年度に韓国語（全5冊）、令和7年度に中国語（3冊 ※令和8年度にも1冊刊行予定）へと翻訳し、各国の大学の授業の教材にも採用されました。</p> <p>さらに、海外の出版社から、令和7年度にハンドブックの出版を行うなど、多言語発信を進めていきます。</p> <p>併せて、AI翻訳については、引き続き検討を行っていきます。</p>
<p>◆企業等との連携について</p> <p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業では、中堅社員に対し、リカレント教育を実施したいという声がある。そういった企業と連携してはどうか。 ・京都の地場の企業等との知己を得て、レクチャーシリーズ等を実施できれば、スマートではないか。 <p style="text-align: right;">（令和7年12月12日 運営会議）</p>	<p>【対応・取組】</p> <p>人文知応援フォーラムの協力を得て、日文研内で、若手経営者等に向けた2日間に渡るトライアル研修(令和7年11月29日~30日)を開催しました。</p> <p>今後、いただいた意見をもとに、検討を進めていきます。</p>